

ソーシャルワーク概論

社会福祉士
矢島陽一

1.なぜソーシャルワークを学ぶのでしょうか

- ・手話を学ぶこと
- ↓
- ・相互理解、共感する
- ↓
- ・人の潜在能力を引き出す。
- ↓
- ・より良い社会に変えていく

1.なぜソーシャルワークを学ぶのでしょうか

◆「障害」のとらえ方の変化

- ・《健康状態》→病気、ケガ、高齢、ストレスなど
- ・《心身機能》→手足の動き、精神の働き、視覚・聴覚等の働きなどの機能。聴力の差などが該当
- ・《身体構造》→手足の一部など、体の部分のこと。
- ・《活動》→歩く、食事する、服を着るなどの活動。
家事行為、余暇活動なども含む

1.なぜソーシャルワークを学ぶのでしょうか

◆「障害」のとらえ方の変化

- ◇《参加》→「生きること」の側面、
趣味の会参加、職場での役割、政治的集まりなど
範囲は広い。
- ◇《環境因子》→
 - ①物的な環境…建物・道路、福祉用具、自然環境
 - ②人的な環境…家族、友人、職場仲間など
障害者などをどう見るか、障害の受容
 - ③社会的な環境…医療、保健、福祉、介護などの
サービス制度、手話通訳も含む

1.なぜソーシャルワークを学ぶのでしょうか

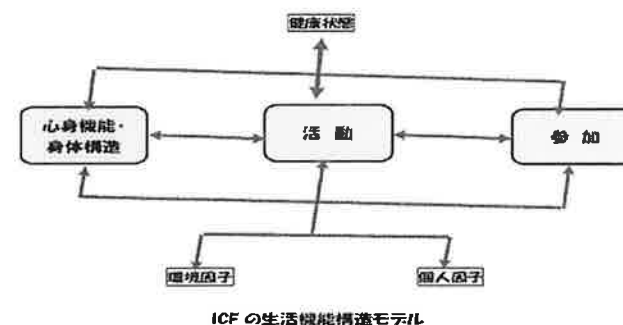
◆「障害」のとらえ方の変化

◇《阻害因子と促進因子》

- ・ 前述の「環境因子」が生活機能に
プラスの影響の場合 → 「促進因子」
- ・ 前述の「環境因子」が生活機能に
マイナスの影響の場合 → 「阻害因子」

1.なぜソーシャルワークを学ぶのでしょうか

- ◇《個人因子》その人固有のと特徴。
年齢、性別、民族、学歴、価値観など、非常に多様。



1.なぜソーシャルワークを学ぶのでしょうか

■聴覚障害者の場合

◇心身機能

- ・ プラス面は… → 「見る力」が優れている
- ・ マイナス面は… → 聞こえない

◇活動

- ・ プラス面は… → 手話で遠くからでも会話OK
- ・ マイナス面は… → 音声言語の習得が困難

◇参加

- ・ プラス面は… → 騒音でも気にせずに集中ができる
- ・ マイナス面は… → 電話の受信音が聞こえない

3.「社会生活力」を高めるソーシャルワーカー

- ・ 一人ひとりの生活者の
抱えている問題の解決に取り組む

↓

ソーシャルワーカー

6.ソーシャルワーカーに求められること

◆「バイステック」の 7 原則

- ・《個別化の原則》
- ・《自己決定の原則》
- ・《非審判的態度の原則》
- ・《秘密保持の原則》
- ・《統制された情緒関与の原則》
- ・《意図的な感情表現の原則》
- ・《受容の原則》

6.ソーシャルワーカーに求められること

◆「バイステック」の 7 原則

- ・《個別化の原則》
 - ①人のものごとのとらえ方は価値観によって異なる。
 - ②同じ状況下の人をひとくくりで考えてはいけない。
- ・《自己決定の原則》
 - ①援助者が思う答えに導くのではない
 - ②クライアントが問題に向き合い、
クライアント自身が思う結論に
到達できるよう導く

6.ソーシャルワーカーに求められること

◆「バイステック」の 7 原則

- ・《非審判的態度の原則》
 - ①クライアントの話を自分の価値観に基づいて、
良い、悪いの判断をしない
 - ②クライアントの話を客観的に
そのまま受け止める
- ・《秘密保持の原則》
 - ①絶対に秘密を守る
 - ②守ってもらえる、という安心感を
クライアントに提供する

6.ソーシャルワーカーに求められること

◆「バイステック」の 7 原則

- ・《統制された情緒関与の原則》
 - ①自分の感情をコントロールするために、自己覚知が必要
 - ②クライアントの話を聞きながら自分の感情に注意を払う
- ・《意図的な感情表現の原則》
 - ①クライアントの感情を大切にする
 - ②クライアントが感情を出しやすいよう、援助者が配慮する
- ・《受容の原則》
 - ①自分の価値観を横にとけて、クライアントの話を聞く
 - ②クライアントの感情をありのまま受け止める

6. ソーシャルワーカーに求められること

■ ソーシャルワーカーの基本姿勢

◇ 共感と同情の違い

- ・ 理解する枠組み (共感 VS 同情)
- ・ 目線 (共感 VS 同情)
- ・ 成立するための人数 (共感 VS 同情)
- ・ 成立するタイミング (共感 VS 同情)

◇ 自己覚知

- ・ ソーシャルワーカー自身をよりよく知っておくことが大切

「ソーシャルワーカー概論」追加資料

◆ ICFの考え方

→ 本人を取り巻く環境などにも原因が…

◆ 環境などの改善に向かわなくても、

他の部分で補完すれば…

◆ 障害というものを総合的にみて、

どこを改善すれば効果的か、分析を…

「ソーシャルワーカー概論」追加資料

① 失聴したら、人工内耳の装備で会話が…。

手話サークルに入って手話もマスターを。

② 人工内耳という補装具や、会議での手話通訳に

よる情報保障で職場復帰へ…

③ 人工内耳という補装具、

手話通訳という「環境因子」を活用する

ことによって「生活機能」向上へ…

④ 聞こえなくなっても乗り越えて

手話サークルに通うという「個人因子」も…